

「第3期京丹波町まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）」パブリックコメント実施報告

「第3期京丹波町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定にあたり、計画に対する住民の皆様をはじめとした多くの方のご意見を賜るため、パブリックコメントを実施しました。本計画に対するパブリックコメントについては、9件のご意見をいただきました。貴重な御意見をいただき、誠にありがとうございました。

【パブリックコメント実施概要】

- 1 募集期間 令和7年2月3日（月）～ 令和7年2月14日（金）
- 2 公開資料 「第3期京丹波町まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）」
- 3 実施方法 計画素案を公表（町HPで掲載・役場等の公共施設にて設置）し、意見を募集した。
- 4 意見提出件数 9 件（ 3 人）
- 5 意見の要旨及びこれに対する考え方

No.	ページ・項目	意見の要旨	意見に対する考え方
1	1ページ 策定の主旨	11行目に「人口は着実に減少しており」という記載について、着実という表現に違和感がある。国語的にもプラスになるときに用いる表現ではないか。	適切な表現に修正いたします。
2	7ページ 第3期京丹波町創生戦略の基本的視点	「誰一人取り残されない持続可能なまちづくり」という記載について、国等でも用いられるが、「誰一人置き去りにされない」と独自の表現に変え、自助、共助で支え合う古き良き風潮が未だ残る、日本のふるさと京丹波の暖かいまちづくりを強調してはどうか。	第4回京丹波町総合計画審議会において、表現の在り方を協議した結果、「取り残されない」を採用することといたしました。
3	16ページ (ウ) 地元学生定着促進プランの推進	町民講座で「質美八幡宮の屋台」を紹介し、NHKでは「小畑漫才の復活」や「葛城神社の曳山巡行」が紹介されるなど、京丹波の伝統文化が注目を浴びる好機になった。 町内の伝統文化を繋いでいくという気運の高まりがみられる中で、祭りや文化を最大限生かしたファンクラブ、交流・関係人口づくり、プラットフォームづくりなどの施策の推進をお願いする。	山城を中心とした文化の掘り起こしを進めています。先人から受け継いできた伝統芸能・文化を次世代に繋げられるよう施策を拡充しております。

4	20ページ 実現方策	食を通じた交流の記載で、（福島県郡山町、十文字 学園女子大学）とあるが、十文字学園が福島県にあるようにも見える。また、郡山町とあるが、1924年に廃止町村となっているので確認願いたい。	誤植等について、修正いたします。
5	21ページ （エ）子育てしながら働きやすい環境の整備	「子育てしながら働きやすい環境の整備」について、京丹波町の学童保育の終了時間は18時で、隣の綾部市の18時30分、福知山の19時と比べて早い。過去に子育て世代へのアンケート行った中で、学童保育の時間延長を求める声もあったと記憶している。セーフティネットとしてファミサボがあることは承知しているが、費用面で学童と異なることから、負担が大きい。「町外で勤務する家庭」にとって子育てしにくい町だと感じている。改善を求めてきたが、一向に改善されることはなく、説明も無い。「子育てしながら働きやすい環境」を考えるのであれば、新しい政策をうちだすことも良いが、過去のアンケートの要望等にも目を向けて取り組むべき。	放課後児童クラブの運営体制の整備を図り、利用時間延長を含めたサービスの充実について検討いたします。
6	25ページ 実現方策	「国道28号交差点改良工事」とあるので、確認願いたい。	誤植であり、修正いたします。
7	全体を通じた意見①	昨年末に国が示した地方創生2.0では、「地方に雇用と所得」、「新しい地方経済」という文言が示すように、「しごとづくり」がより前面に出されている。極論すれば、雇用と所得があれば、「まち」も「ひと」も副次的に改善するもの、「素案」における「しごと」への言及・扱いはどうか。たとえ“しごと”はあっても都市並みの所得が得られなければ、ひとまちの再生・創生はない。国に呼応した熱量ある「しごと」の創成案が望まれる。	地方版総合戦略は、自治体が人口減少などの課題を解決し、将来も活気のある地域を存続させることを目的として、戦略人口の実現に向けた考え方や取組等を記載しているものです。この中で、住民の定着や移住の増加に向けても多様な仕事づくりは課題であると考えております。今後も、横断的な連携により、魅力ある仕事の創生に向けて、取り組んでまいります。

8	全体を通した意見②	創生戦略や他の計画も、最上位計画である「総合計画」との連携を強引に行っていると見ている。総合計画は地方自治法上での作成義務は無く、地方の独自性に委ねられている。 遠大な将来像に向かう日々の継続もよいが、常時アップデートする具体的かつ新規計画の作成と実効性こそ求められているのではないか。	総合計画は、京丹波町が目指すまちづくりと将来像を記載しており、様々な計画や施策は総合計画の理念等を中心に置き、検討を行っております。 ただし、社会経済情勢等の変化への対応は必要であり、具体的な施策等を記載する基本計画については5年程度で見直すこととしています。 総合計画を含め、より良い運用と管理が行えるよう、引き続き検討しながら進めてまいります。
9	26ページ (オ)「災害の少ない町」での防災まちづくり	丹波高原は地形の特性から、水害やがけ崩れが起これにくいと考えており、かつ、R9が走り、京都縦貫へのアクセスもよいことから、家具倉庫会社、大型量販店 薬品店の進出もある。 また、災害が生じた場合も、広い敷地やを有する須知高校や丹波自然運動公園があり等、被災者等への対応について好条件であると考え。一方、国において防災庁が設置されるなど、防災がまちづくりのキーワードになりつつある。 このことから、消防団、自主防災組織の充実という記載にとどまらず、防災の拠点となりえる立地を生かした、まちづくりについて施策の検討し、移住等にも生かすべき。 《例》防災のまちづくり検討委員会の設置、防災教育の充実、防犯活動など。	ご意見をもとに、本文を追記いたしました。